

# 社 会 学 科

## 1. 社会学科の教育理念

「消費社会」「情報化社会」「高齢化社会」など、さまざまによばれる現代社会。社会学科では、時代の流れを的確に読み取り、人間関係の観点から社会を考え、さまざまなテーマにおいて、幅広く社会・人間のしくみを解明することを学ぶ。ひと言で人間関係といっても、家族関係から国際関係に至るまでそのつながり方はいろいろである。時代とともに複雑化していく人間関係を柔軟な思考力で分析し、未来社会に不可欠な知的能力と主体性をもった市民の育成をめざしている。

## 2. カリキュラムの特徴

社会学科ではどんなことを学ぶのかを、簡単に紹介しよう。ただし授業科目の中には毎年度開講されないものもある。この履修ガイドやシラバス（講義案内）をよく読んで、注意して履修を組むようにしよう。

大学で学ぶ授業科目は、大きく分けて2つある。1つは全学共通科目、もう1つは専門教育科目である。

全学共通科目には、**共通教育科目**と**キャリア教育科目**と**言語文化科目**と**健康文化科目**がある。**共通教育科目**はどれも、社会学の学習・研究にとってきわめて重要である。なぜなら、社会学は非常に広範な対象とアプローチをもつからである。各自の関心と必要に応じて科目を選択するとよいだろう。2005年度入学生から「ITスキルズ」が必修科目となった。パソコンの基本的な使い方を学び、インターネットを活用して、情報収集・処理・発信ができるようになることをめざしてほしい。

**言語文化科目**では、必修科目となっている英語以外にもさまざまな外国語がそろっている。興味のある言語あるいは必要と思う言語を選ぶと良いだろう。また、語学に関しては、本学には様々な海外語学研修制度がととのっているから、おおいに利用してほしい。特に社会学科生にとっては、日本以外の文化に接することがとても大事なので、積極的に外国にでかけてほしい。

**健康文化科目**にもいろいろなスポーツがそろっている。スキーやカヌーなどのように、遠くにでかけて合宿形式で行われる授業もあるので、いい体験になるだろう。

社会学科の専門教育科目には、**演習科目・卒業論文**、**学部共通科目**（人間・キャリア科目）、**社会学科科目**などの学部・社会学科独自の科目と、他学部・他学科の科目をとる**関連科目**がある。

まず、**演習科目・卒業論文**について説明しておこう。

1年次生が学ぶ「基礎演習」は、大学で学ぶためあるいは社会学を学ぶために最低限必要なことを、少人数の演習形式で学ぶものである。この専門教育への準備となる授業は、どのクラスも社会学科の教員が指導教授として担当しており、高校時代までのホームルームのような役割も持っている。何か困ったことがあったら指導教授に遠慮せず相談しよう。

「演習」は特定のテーマをより深く掘り下げて勉強するための科目で、「ゼミ」(ゼミナール)とよばれている。ゼミの真骨頂は学生諸君の発表と自発的な討論にある。そのつもりで積極的に取り組んでほしい。「演習Ⅰ」は2年次の後期に始まる。演習はⅠ～Ⅴを合わせると2年半学ぶことになる。演習は早期開始により小人数教育の充実をはかるとともに、留学等の便宜のために半期で単位が取得できるようにしている。(下表参照)

「卒業論文」は、社会学科での教育および皆さん自身の勉学・研究の総仕上げである。「原稿用紙80枚(32,000字)もの量を書くなんて!」と思うかもしれない。しかし、一つの課題に長い時間取り組み、完成したときの達成感はいくらも味わったことのないものだと、多くの学生がいう。是非、全力で挑戦してほしい。

### 演習の年次配当について

1年次	2年次		3年次		4年次	
基礎演習(4)		演習Ⅰ (2)	演習Ⅱ (2)	演習Ⅲ (2)	演習Ⅳ (2)	演習Ⅴ (2)

( ) 単位数

**学部共通科目**(人間・キャリア科目)は、問題解決や事業達成に必要な基礎的な能力を身につけるために開講されている科目である。日本語の運用能力を身につける1年次配当の「日本語演習Ⅰ」は必修科目である。そのほかに、達成体験の学習・研修や検定実務資格の取得を評価し単位を認定する科目がある。

**社会学科目**は、演習と並んで社会学の専門教育の中核である。社会学の研究対象は、私たちの暮らしを取りまく社会現象そのものであり、本学科のカリキュラムにおいても、現代を学ぶ多彩な科目をそろえている。それらは、**社会学理論系科目、社会調査系科目、地域・国際・環境系科目、メディア・現代社会系科目、社会福祉系科目**に分けられる。系科目はそれぞれ年次配当により基礎から専門へという位置づけになっている。自分の興味にあわせて、特定の系科目を深く学ぶことを是非おすすめする。

**社会学理論系科目**には、1年次必修科目の「社会学」という基礎の上に、さらに専門的に学ぶ「社会学原論」「社会学史」「社会学文献講読」などの科目がある。「社会学文献講読」は日本の文献だけでなく外国の文献も含めて、社会学の基本的な文献を講読し、社会学の基礎的・先駆的な成果をじっくり学ぶ、少人数の授業である。社会学を深く学びたい人や大学院進学を考えている人は、できるだけ履修することが望ましい。

**社会調査系科目**には、1年次配当の「社会統計学」と2年次以上配当で必修科目の「社会調査方法論」ほか「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」などの科目がある。「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」は教員の指導のもと学生たちがみずから社会調査を、企画、準備、実施、集計、分析するものである。なお、必修科目の「社会調査方法論」で学んだ社会調査の理論と技法をさらに一步高いレベルまで能力を高めたい学生のために、「**社会調査士**」資格の認定制度がある。社会調査士の資格を得るために必要な単位や申請の仕方の詳細については「松山大学人文学部社会調査士認定規程」を参照すること。

**地域・国際・環境系科目**には、1年次配当の「地域社会学」「家族社会学」、2年次以上配当の「都市社会学」「環境社会学」などの科目がある。地域社会という場が直面する諸課題を学

ぶ。

**メディア・現代社会系科目**には、1年次配当の「メディア論」「スポーツと社会」、2年次以上配当の「教育社会学」「産業社会学」などの科目がある。情報化・産業化の展開および諸制度の変容を学ぶ。

**社会福祉系科目**には、1年次配当の「現代社会と福祉」「相談援助の基盤と専門職」、2年次以上配当の「相談援助の理論と方法」「社会病理学」「臨床社会学」などの科目がある。なお、社会福祉士を志望する場合は、社会福祉系科目に加えて、関連科目の「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「相談援助実習」、「相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」を履修する必要がある。社会福祉士の受験資格を得るために必要な単位や申請の仕方の詳細については「松山大学人文学部社会学科社会福祉士課程」を参照すること。さらに、社会福祉士資格取得後にスクール(学校)ソーシャルワーク教育課程修了証の発行を希望する者は、「スクールソーシャルワーク論」等の科目を履修する必要がある。

なお、これらの科目に加えて、それぞれの系科目ごとに時々の魅力あるテーマを取り上げる特殊講義を開講する。自分の興味にあわせて積極的に受講してほしい。

最後に**関連科目**。これは他学部・他学科の科目で、社会学科の学生にも受講してほしい科目を選んでいく。自分の関心や必要にあわせて受講してほしい。

### 3. 主体的・計画的学習のすすめ

社会学科のカリキュラムを通して、知的能力と主体性を持った市民を育成したいと考えている。言い換えれば、皆さんには、①自分の頭で社会的に思考し、②自分の足で情報を入手し社会的に分析を行い、③自分の考えを発表し実践できる人になってほしいと願っている。

社会学科に入学して皆さんが学ぶ方法は、大きく2つある。1つは大学での授業で学ぶこと。もう1つは興味のあることを自分で学ぶ(研究する)ことである。後者もあることを忘れずに、主体的・計画的に学習することを心がけてほしい。

最後に、いちばん大切なことを見失わないでほしい。大学時代になすべきことで最も大切なことは、「自分とは何者なのか、自分が一番やりたいことは何なのかを見つけること」である。「その答えはもう出している」という人は、その答えを問いなおし、鍛えなおすことが大切である。

答えは他人が与えてくれるものではない。自分で探さずにはないものである。これが大学時代の目的であり、勉学や研究は、目的を成し遂げるための手段である。しかも、いろいろある手段のうちの一部である。たとえば「人生とは何か」について友人と真剣に語り合うこと、時には孤独になって自分を見つめること。こういうことも、目的を成し遂げるための有力な手段である。

さまざまな手段を組み合わせることで、きっと素晴らしい答えを導きだすことができるだろう。いちばん大切なこと(目的)を常に見据えながら、「よく学び、よく遊ぶ」こと(手段)を実践してほしい。